



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.57
六甲山の水質調査/
駒井 幸雄
2007年12月発行

第57回テーマ： 六甲山の水質調査

講演内容

- 六甲山の水質の成り立ちは？
- 六甲山の水は飲んでも大丈夫？
- 大気の汚染と六甲山の水質を考える
—特に窒素による汚染について—

実施日：平成19年12月15日（土）
午後1時～3時30分
場 所：六甲山YMCA里見ホール



講師：駒井 幸雄さん
プロフィール

1951年生まれ、55歳、尼崎市出身。1975年4月より、兵庫県公害研究所第二研究部（現、兵庫県立環境科学センター水質環境部）。2007年4月より大阪工業大学工学部環境工学科教授。



定期調査地点の 自動測定装置

9ヶ月ぶりのYMCA

今月から3月まで会場は六甲山YMCAです。星野池は全面改修中でした。

空は雲ひとつない快晴で、北風が身にしみる寒さです。午前中の景観整備活動に12名が参加し、記念碑台周辺の雑木林に植生調査のための対象区画を設定しました。



改修中の星野池

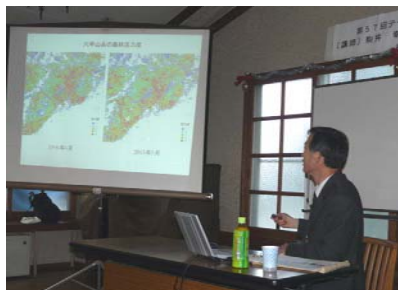
専門家の駒井さんが一般向けに丁寧な解説

講師の駒井さんは、環境科学センターに在職されて約30年間にわたって水質調査を続けられた専門家です。今年の4月に大阪工業大学に赴任され、環境工学の講座の創設に尽力されています。

今回は六甲山系の水質調査のデータを踏まえて、六甲山の水質のとらえ方を体系的にお話いただきました。

「六甲山の沢の水は飲めるのか？」という素朴な疑問を持つ方から、水質調査を実践されている方まで参加者は多様でした。

専門的なデータを図表やイラストに変えて、わかりやすく表現していただきました。そして、様々な質問にも懇切丁寧に説明していただきました。



解説される駒井さん

水質調査の全体像から森林の活力度も知った

講演では、花崗岩でできた六甲山の水質の成り立ち、水質調査からとらえた六甲山の水質を解説されました。続いて、参加者の関心が強い「六甲山の水は飲めるか？」に対して、フッ素、硝酸性窒素、大腸菌の実態を紹介していただきました。

そして、時間延長しながらも、窒素による環境汚染の実態を説明されて、「森林の活力度」という視点を提起していただきました。

水質調査から六甲山の環境変化をつかみたい

駒井さんから、六甲山の水質について多岐にわたるお話をうかがいました。「六甲山・水質調査基本講座」と名づけたような体系立てた内容でした。

水質調査が六甲山の環境の変化をとらえる重要な指標であることを実感できました。同時に、まだ解明できていないことも多いので、「3年以上の定点観測が必要だ」という課題にも共感しました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 村上 俊洋 さん

六甲山は子どもの頃から非常に身近な存在であり、『六甲のおいしい水』等を含めて様々な六甲山の自然の恩恵を受けて育ってきました。

今回このセミナーに参加して、自分が六甲山の表面的な事しか知らなかったことを痛感しました。これを良い機会として六甲山について掘り下げて勉強をしていきたいと感じました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
コベルコ環境保全基金、セブン-イレブンみどりの基金
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金